

最強の投資手法「スーパーボリンジャー」「スパンモデル」によるシンプルトレード

ドルストレート通貨ペア(ドル円、ユーロドル、豪ドルドル、ポンドドル)、クロス円通貨ペア(ユーロ円、豪ドル円、ポンド円)に関して、週足、日足、4時間足、1時間足分析を掲載します。

分析は、全て、先週末3月11日、日足終値時点(NY時間午後5時)での判断です。尚、内容は、私の有料情報サービス「実践トレードコーチング掲示板」(<https://www.eagle-fly.com/mur/>)から一部抜粋(毎日お届けしている中で、月曜日の朝一番の配信分のみ)です。毎日の配信をご希望の方は、ぜひ「実践トレードコーチング掲示板」(<https://www.eagle-fly.com/mur/>)をご覧ください。(動画配信を毎日行っております。無料お試し期間もあります。)

ところで、スーパーボリンジャーは、価格的要素を重視し、より短期の判断、スパンモデルは、時間的要素を重視し、より長期の判断です。そして、スパンモデルシグナルは、より短期の判断、赤色スパンは、より長期の判断です。

◆「マーフィーFX」YouTubeチャンネルはこちらです。

<https://www.youtube.com/channel/UCTQj289ZKb3JgFqj5RefBcg>

様々な相場解説を無料動画で視聴出来ます。

<<<主要7通貨相場週足、日足、4時間足、1時間足分析>>>

★「週足」はポジショントレードの大局観把握、

「日足」はスイングトレードの大局観把握、

「4時間足」はゆったりデイトレードの大局観把握、

「1時間足」はデイトレードの大局観把握に特に有効です。

尚、特に、1時間足は、刻々と変化するため、その都度の判断が必要です。

また、売買判断は、トレードスタイル別の大局観より下位の時間軸チャートにて判断することをお勧めします。

そして、トレード戦略の解説は、YouTubeで配信している「実践トレード解説」をご参考にしてください。

■ドル円

<<週足分析>>

本格上昇トレンド局面。「走る相場」

終値が+2σラインを上回ったことで、相場が上放れた格好。

終値と+1σラインとの位置関係を注視したい場面。

尚、目先、+2σラインを上回り「走る相場」となっているため、「リバーサルパターン」にも注意をして臨みたいところ。

「リバーサルパターン」の条件は、反落の場合、(1)1本前の安値をブレイクすること、(2)終値が+2σラインを下回ること、の両方を満たす場合。

<<日足分析>>

本格上昇トレンド局面。「走る相場」

終値が+2σラインを上回ったことで、相場が上放れた格好。

終値と+1σラインとの位置関係を注視したい場面。

尚、目先、+2σラインを上回り「走る相場」となっているため、「リバーサルパターン」にも注意をして臨みたいところ。

<<4時間足分析>>

本格上昇トレンド局面。

終値と+1σラインとの位置関係を注視したい場面。

尚、目先、+2σラインを上回り「走る相場」となっているため、「リバーサルパターン」にも注意をして臨みたいところ。

<<1時間足分析>>

本格上昇トレンド局面。

終値と+1σラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値が+1σラインを上回り続けるかぎり、本格上昇トレンド局面継続となる一方で、終値が+1σラインを下回る場合、調整反落局面入りするということ。

■ユーロドル

<<週足>>

本格下落トレンド局面。

終値と-1σラインとの位置関係を注視したい場面。

目先、「走る下落相場」(終値が -2σ ラインを下回る)となっていることで、
今後、「リバーサルパターン」の発生にも注意したい場面。
「リバーサルパターン」の条件は、反騰の場合、(1)1本前の高値をブレイクすること、
(2)終値が -2σ ラインを上回ること、の両方を満たす場合。

<<日足分析>>

本格下落トレンド局面。

終値と -1σ ラインとの位置関係を注視したい場面。

尚、売りシグナルと赤色スパン陰転の順行パターンの売りサイン点灯中。

シグナル点灯や転換時の猶予期間中につけた安値ラインは上値レジスタンス
として引き続き意識しておきたい。

<<4時間足分析>>

調整反落局面。

終値がセンターラインを下回ったことで、調整が本格化した格好。

調整の反落局面の最終ターゲットである -2σ ラインに接近中。

遅行スパンがローソク足に接触しており、一旦は底堅い展開が想定される。

<<1時間足分析>>

本格下落トレンド局面。

終値と -1σ ラインとの位置関係を注視したい場面。

尚、売りシグナルの順行パターンの売りサインが点灯している一方で、

赤色スパン陰転の逆行パターンの買いサインが点灯している点に注目。

■豪ドル/ドル

<<週足>>

レンジ局面。

レンジ上限の目途である $+2\sigma$ ラインに接近した後、反落。

遅行スパンがローソク足に沿って上げてきた動きに注目(同期性)。

<<日足分析>>

調整反落局面と緩やかな上昇トレンド局面が併存中。
赤色スパン陽転の逆行パターンの売りサインが点灯中。

<<4時間足分析>>

レンジ局面。
目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。
遅行スパンの「同期性」にも注目。

<<1時間足分析>>

本格下落トレンド局面。
終値と -1σ ラインとの位置関係を注視したい場面。
尚、目先、売りシグナルと赤色スパン陰転の逆行パターンの買いサインが点灯中。
このような場面では、まずは、スーパーボリンジャーの判断を優先させたい。

■ポンドドル

<<週足>>

本格下落トレンド局面。
終値と -1σ ラインとの位置関係を注視したい場面。
目先、「走る下落相場」(終値が -2σ ラインを下回る)となっていることで、
今後、「リバーサルパターン」の発生にも注意したい場面。
「リバーサルパターン」の条件は、反騰の場合、(1)1本前の高値をブレイクすること、
(2)終値が -2σ ラインを上回ること、の両方を満たす場合。
尚、売りシグナルの順行パターンの売りサインが点灯している一方で、赤色スパンが
陰転しており、「1本勝ちパターン」となって当面の安値をつける可能性もあり。
いずれにせよ、まずは、スーパーボリンジャーの判断を優先させたい場面。

<<日足分析>>

本格下落トレンド局面。

終値と -1σ ラインとの位置関係を注視したい場面。
売りシグナルの順行パターンの売りサイン点灯中。
また、赤色スパンが陰転の順行パターンの売りサインも点灯。

<<4時間足分析>>

基調として下落トレンド局面。
遅行スパンが陽転しないかぎり、戻り売り優位の展開。

<<1時間足>>

本格下落トレンド局面。
終値と -1σ ラインとの位置関係を注視したい場面。
売りシグナルや赤色スパン陰転の順行パターンの売りサインも点灯中。

■ユーロ円

<<週足>>

本格下落トレンド局面。
終値と -1σ ラインとの位置関係を注視したい場面。
赤色スパン陰転の逆行パターンの買いサインが点灯した点に注目。

<<日足分析>>

調整の反騰局面と緩やかな下落トレンド局面が併存中。
終値が -1σ ラインを上回って以降、調整反騰局面入りとなった一方で、
終値がセンターラインを下回るかぎり、緩やかな下落トレンド局面とも読む。
赤色スパン陰転の逆行パターンの買いサインに加えて、売りシグナルの逆行
パターンの買いサインが再点灯中。

<<4時間足分析>>

調整反落局面と緩やかな上昇トレンド局面が併存中。
終値とセンターラインとの位置関係を注視したい場面。

買いシグナルの逆行パターンの売りサインが点灯中。

<<1 時間足>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

■豪ドル円

<<週足>>

レンジ局面。

遅行スパンの「同期性」にも注目。

すなわち、遅行スパンが高値を付けたローソク足に差し掛かっている。

したがって、当面の高値を付けやすいタイミングに近いと読む。

<<日足分析>>

本格上昇トレンド局面。

終値と+1σラインとの位置関係を注視したい場面。

赤色スパン陽転の逆行パターンの売りサインが点灯中。

赤色スパン陽転時の猶予期間中につけた高値ラインを上方にブレイクするかどうか注視したい場面。ブレイクすると順行パターンの買いサインに変化する。

<<4 時間足分析>>

本格上昇トレンド局面。

終値と+1σラインとの位置関係を注視したい場面。

<<1 時間足>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

■ポンド円

<<週足>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

<<日足分析>>

調整の反騰局面。

終値が -1σ ラインを上回ったことで、調整反騰局面入りを確認。

売りシグナル、及び、赤色スパン陰転の逆行パターンの買いサインが点灯中。

<<4時間足分析>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

<<1時間足>>

調整反落局面と緩やかな上昇トレンド局面が併存中。

終値とセンターラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値がセンターラインをキープするかぎり、緩やかな上昇トレンド継続となる一方で、終値が同ラインを下回ると、調整反落が本格化する。

★尚、スーパーボリンジャーは、価格的要素を重視し、より短期の判断、スパンモデルは、時間的要素を重視し、より長期の判断となる。また、スパンモデルシグナルは、より短期の判断、赤色スパンは、より長期の判断となる。

◆「マーフィーFX」YouTube チャンネル登録のご案内。

<https://www.youtube.com/channel/UCTOj289ZKb3JgFqj5RefBcg>

様々なマーフィー流相場分析、解説が動画で無料視聴出来ます。

◆マーフィー流 FX「実践トレードコーチング専用」ライン@のご案内。

以下より登録できます。

<https://www.span-model.com/line/>

◆「スパンオートトレーダー(SAT)」のご案内。

「スパンオートトレーダー(SAT)」とは、「裁量トレード」と「自動売買(EA)」

の良いとこ取りをした、とても便利なトレードツールです。

「スパンオートトレーダー」の詳細、及び、お申込みページはこちらです。

<https://www.xfine.info/satrader/>

◆「スパンオートシグナル」のご案内。

スパンモデルを有効に使いこなす為のきわめて強力なツールです。

スパンオートシグナルのご紹介、および、ご購入用ページはこちらです。

<https://www.xfine.info/sauto/>

以上です。